



まず一目でも会うこと、 そんな状況だけでも作ってほしい

横田早紀江



いつもありがとうございます。昨日は、めぐみの通っていた寄居中学校のクラスメイトの人たちが新潟から来られました。みなさんの思いや写真を入れたしおりとともに署名簿を官邸で官房長官に直接お渡ししたいということでしたので、私も一緒に伺いました。

まず前の官房長官の加藤氏がお会いくださって、皆で思いの丈を話し、「動きだしていただかなければ（事態は）動きません」と訴えました。そのあとまた官邸に行って、松野官房長官とお会いしました。

私たちが過去40年も助けてくださいと言い続けてきた問題なのに、これだけの大臣がいらして、なぜ何も動かず、本当のことがわからないのでしょうか。さまざまな情報が入りますが、それはそうだったらしいねというようなことであって、本当にこれが娘たちのものだという確信がもてないので。早い時期だったら戻ってこられる状況でし

たが、もうこれほどの時間がたっています。めぐみには、私から見て孫のウンギョンちゃんとひ孫がいます。ほかの家族も同じだと思いますが、そういうふうに家族が複雑につながっている中で、帰国させろと言つても、本人だけ帰すわけにはいかないと思います。

そういう状況の中で、親は歳を取ってきていて、このまま帰国を望んでいても本当に実現できるのか不安があります。とにかく再会する。一目でも見て元気で良かつたと喜ぶ。オンラインでもいいので、お互いが対面して確認し合う。そういう状況だけでも作っていただくことはできないのか。これは救う会の方針とは違うかもしれませんが、肉親として、今の状況となってはそういう思いです。今年元気でいられるか。来年、再来年まで元気でいられるのかわかりませんので、元気な間に本人の確認ができるような状態にだけはしてほしいと思います。それには、まず向こうのトップなり責任ある話ができる人と、日本の総理なり代表者が直接すぐに動きだして対面交渉をしていただかないと、絶対に

動きませんから。何もわからない今まで、これ以上続けられません、と強く申し上げました。

国会議事堂にあれだけの人たちがいて議論しているのですから、誰か一人でも、自分がやろうと立ってください、まず動いていただきたいと願っています。これを置き去りにしてうやむやにしていくようなことは、これから日本にとって絶対にあってはいけないと思うのです。いつもあまり言い過ぎてはいけないと、みなさん遠慮がちなのですが、昨日はいつになく激しく訴えてまいりました。

神様は人間の心を探り、私自身も含めて世界中の人々に、「どうしたらよいか、わかっているでしょ」という思いで、黙って見つめておられるのだと思います。

（ウクライナへの）爆撃で、美しい町が一瞬にして粉々になった。誰かが考えついたことがこんなに大変なことになっています。恐ろしくてしかたありません。「恐れるな。…たじろぐな。わたしがあなたの神だから」（イザヤ41:10）のみことばを信じて、お祈りしています。

（2022年4月21日第211回祈り会）